

2014年度は長年みすみ病院へ貢献頂いた大島医師が球磨郡公立多良木病院へ院長として就任のため外科2人体制となった。

外科の新入院患者数は185例で、感染症5例、悪性新生物50例、呼吸器疾患7例、消化器疾患50例、その他73例だった。

2014年度の手術件数は112例で、前年度の168例に対し67%にとどまった。全麻・腰麻手術は、83例で前年度144例の58%だった。

悪性新生物は前年度49例から26例となった。内訳は胃癌が昨年の19例から6例に減少した。うち腹腔鏡下胃切除術は1例施行した。大腸癌は14例で、うち直腸癌は2例だった。肝胆膵領域では肝切除を1例に行った。今年度の乳癌は5例で、温存手術は1例に施行し、熊本市内の病院と連携し術後放射線照射まで行っている。

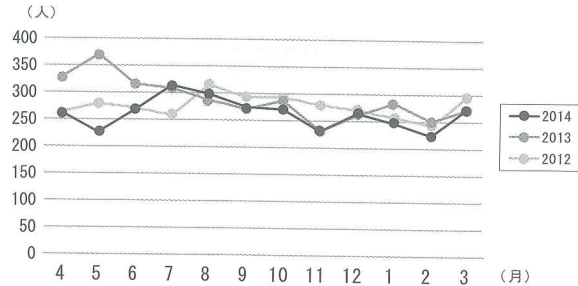
胆石・胆嚢炎では計19例に手術を行い、すべて腹腔鏡下胆嚢の手術を行い鏡視下手術の遂行率は100%だった。急性虫垂炎は6例で、うち3例に鏡視下手術を行った。単径・大腿ヘルニアは16例だった。腓良性腫瘍に対し腓尾部切除を1例に行った。

鏡視下手術の総数は24例で全手術症例の29%を占めた。

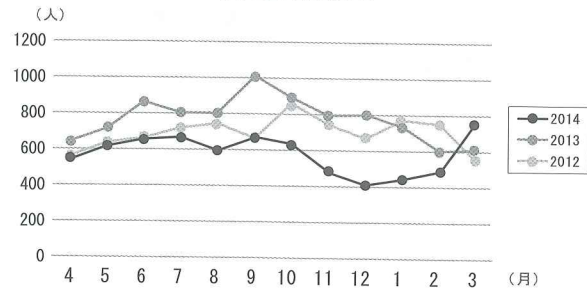
近年の悪性疾患に対する化学療法の進歩に伴い、当科でも進行・再発癌や悪性疾患術後化学療法を積極的に行っている。化学療法のためのIVポート挿入は8例に行った。昨年より外来化学療法室が活動を開始し、外科単独でも昨年度22例に延べ184回施行している。内訳は胃癌6例、大腸癌12例、乳癌4例、肝胆膵領域4例だった。外来化学療法室が今年度から本格稼働することとなり、日ごろから病気と向き合っている患者さんにはよりリラックスした環境で治療を受けていただけたと考えている。

高齢者の外科手術の増加で、疾患をしっかり治すことと同時に手術後も生活の質を落とさず在宅生活を続けられるように心がけている。

外来患者数推移



入院延患者数推移



OP件数推移年度比較

